

川崎信用金庫理事長賞受賞作品

「私たちとプラゴミ問題」

東小倉小学校 5年生 森田 彩友香

今、みなさんが出したプラゴミがふえて日本で大きな問題となっていることを知っていますか。プラゴミは私たちの生活に大きくかかわっているのです。

私がこのことを考えたきっかけはアメリカへの海外旅行です。お店へ行き、食べ物を買ったとき「レジぶくろは〇〇ドルです」と言われ、レジぶくろにお金がかかるのかとびっくりしました。レジの横を見るといろいろなエコバックを売っていました。私はプラゴミについて知っていたので、アメリカではこういう取り組みをしていたから、日本でもプラゴミをへらすためにこうしたほうがいいと思いました。エコバックを持っていればわり引きしてもらえるなどのサービスをすれば、エコバックを持つ人がふえるのではないかと思います。

私は毎日、新聞を読んでいます。その時、最近プラゴミのことにかんする記事が多いことに気がつきました。その中で私が心に残った記事は二つあります。

一つ目は海や山などにすてられたプラゴミを食べ、動物たちが命をおとしているという記事です。死んだウミガメやクジラなどの胃の中からビニールぶくろなどのプラゴミが出てきました。森の動物が近くにあったすなはまにうちあげられていたプラゴミを食べてしまったということが書いてあり、まったく悪くない動物が、私たちが出したプラゴミのせいで命をおとしているとわかり、ショックを受けました。

二つ目は、日本のプラゴミの行き場がなくなっているという記事です。二年前までは、中国が日本の出したゴミを買いとってくれていたけど、中国がかんきょう保ごのためゴミを買いとってくれなくなりました。日本には大量につもったプラゴミがつみあげられており、私たちが出したプラゴミがこんなふうになっていると知り、プラゴミのことを意識するようになりました。そこで私はインターネットでプラゴミ問題を調べたり、新聞でプラゴミのことを見て考えたりしてみました。プラゴミのことをよく知り、自分でできることを考えてみました。

みなさんは、あるファミリーレストランがストローをおくことをやめたことを知っていますか。かんきょうのためにプラスチックストローをおくことをやめたそうです。私もこの前行ったのですが、ふつうのストローをおくところにはストローはありませんでした。ですが子どものコーナーにはストローがあったのです。なぜだか分かりますか？実は「生分解性プラスチック」という、放っておけば土にもどるプラスチックが開発されたのです。ストローなどのプラスチックはリサイクルしづらく使い捨てのゴミとなってしまう、ゴミとなったプラスチックは細かく分解され、最終的にはマイクロプラスチック(0.5ミリ以下 0.1グラム以下の小さなプラスチック)になるのです。そしてあまりに小さいために回収するのがむずかしく、魚たち

がまちがって食べてしまうため、海をよごしてしまい、魚たちにも悪えいきょうをおよぼしているのです。しかし「生分解性プラスチック」はかんきょうにえいきょうをあたえず、放っておくと土になるのでとても便利です。「生分解性プラスチック」は価格が高いことやそもそも加工がむずかしい上、生分解するだけに食品容器に使うと中身が長もちしにくくなるなど問題もあります。それでもレストランなどから、どんどん広まっていくといいと思いました。

今、プラゴミ問題は私たちの日本や世界に大きくかかわっているのです。私はプラゴミで動物が命をおとしていることを知りました。私たちができるプラゴミ問題も知りました。富山県ではレジぶくろを五円にした結果、エコバックの持参率が九十二%と、平均で九割をこえたのです。私はほかの県もそれにならってエコバックの持参率がふえるといいと思いました。

このように私たちしだいで日本のプラゴミ問題はかわってゆくのです。日本からプラゴミをへらすことはむずかしいかもしれませんが、小さな努力が実をむすんでしょう来プラゴミのない日本になるといいと思いました。